

あいかんきょう



2017/4/20

会報・第131号

一般社団法人 愛知県環境測定分析協会



「春の暖かさを感じる花桃」

撮影地：長野県阿智村の花桃の里 撮影日：平成25年5月4日

提供：若林恵里佳氏 株式会社イズミテック

『青空に花桃の淡いピンクがとてもきれいです。』

目次

委員会報告	2	私の履歴書	6
ブロック会議報告	3	環境標語紹介	8
研修会・勉強会報告	4	事務局からのお知らせ	8

四季折々

▼毎年、この時期になると桜の開花前線が話題になり、春の到来を感じさせてくれます。名古屋における開花の平年値は3月26日、満開が4月3日で、今年の開花日は2日ほど遅かったようです。▼また、春といえば、山家育ちの私は、コブシの白い花、林内のカタクリ、道端の小さなオオイヌノフグリなどをみると、寒い冬を越した後のホッとした喜びを感じます。学生の頃、カタクリの群生地があると聞き、信州の山に出かけたことがありました。時間が早くまだ花は閉じたままで待つこと数十分、林間に日が差し始めると、それまで下を向いて閉じていた花々

が、まるでバレリーナが弧を描いて手を持ち上げるように、ゆっくりと花卉を反らせて開き、とても幻想的な光景でした。▼春の妖精とも呼ばれるこの花は、春先の5-6週間しか地上に姿を見せず、花期も1-2週間程度なので、目にする機会は少ないかもしれません。かつては「片栗粉」の名の通り食用にしていたのですが、乱獲、盗掘、土地開発などで生育地が少なくなっています。香嵐渓や可見川下流域自然公園などで3月下旬～4月上旬、高山市付近では5月上旬ごろまで咲いています。ぜひお出かけください。(文責 吉成仁志)

委員会等活動報告

○総務委員会

平成29年度「環境に関する喚起標語」募集につきましては、大変多くの素晴らしい作品を応募いただき誠にありがとうございました。2月14日に本年度第3回目の総務委員会を開催し、皆様からいただいた作品の審査選考をさせていただきました。今回は、101作品の力作が揃い、審査は大変でありましたが、本紙上にて特選作品及び入選作品を発表させていただきますので、ご覧いただきたく思います。特選作品につきましては、5月25日の社員総会にて表彰をさせていただきます。

また平成28年度景況調査結果につきましては、会報誌7月号にて発表させていただく予定をしております。

総務委員長 大野 哲

○企画委員会

平成28年度第2回の企画委員会を11月14日に開催しました。今年度の主な活動の一つであった『日環協・環境セミナー in 岐阜 by 長良川』成功に向けしっかりサポートしていくことについて振り返りをしました。委員からは、当委員会として良好なサポートができたとの意見が概ねでありました。次に、3月21日に開催が決定した『特別企画セミナー』のサポートをいかにしていくかを話し合いました。なお、3月21日に第3回の委員会を開催し今年度の総括をする予定です。

企画委員長 柴田 金作

○教育研修委員会

1月25日に12名が参加しSOP研修会を開催しました。(株)ユニケミー中安史隆氏からSOPの重要性と作成方法の講義を受けた後、グループに分かれ議論しながら実際にSOPを作りました。参加者同士の情報交換及び交流の行えた有意義な研修会となりました。

平成29年度も研修会を企画しております。環境測定分析に必要な情報を提供し、また精度管理や分析技術のレベルアップを図る研修を提供したいと考えています。6月2日予定の環境測定分析新任者研修会及びその他の研修会に多数のご参加をお願いいたします。

教育研修委員長 服部 寛和

○広報委員会

書面広報委員会の開催。

年度末は、各社業務繁忙期となります。この業務繁忙期における広報委員会の在り方を考える意味もあり、従来のように広報委員が一堂に会し会報誌の編集を行う方式から書面（メール）による委員会方式に切替え平成29年2月に書面委員会を実施しました。今回の書面委員会を検証しながら、今後の広報委員会の運営方法を考えていきたいと思っております。

書面広報委員会にて、4月20日発行予定の会報誌「あいかんきょう」（131号）の編集内容を決定するとともに、7月発行予定の132号の編集方針について打合せを行いました。

平成27年7月（124号）から連載を開始した、濱地顧問の「私の履歴書」は今回の8回目で当初予定した連載は終了します。7月発行予定の132号に「追補版記事」を掲載させていただき2年に亘る連載の最終とさせていただきます。正に、愛環協や日環協の歴史そのものです。乞うご期待ください。

また、恒例の環境月間講演会は、6月16日に日本特殊陶業市民会館で開催予定です。皆様、奮ってご参加ください。

広報委員長 菊谷 彰

○技術委員会

☆水質・土壌ワーキング

平成28年度第1回共同実験の試料配布量は、平成27年に引き続き少ないという意見が多く、共同実験参加各位にはご迷惑をおかけしてしまい大変申し訳なく思っております。

結果検討会のアンケートで要望の多かったBOD、n-ヘキサン抽出物質は保管状況により測定値が変動する可能性が高く、また低濃度金属としてアルミニウム及び亜鉛は試料配布ポリ瓶の汚染が考えられることから除外させていただき、平成29年度第1回の共同実験は模擬排水中のクロム及び亜鉛とし、有機物及び塩類の添加を考えています。募集案内は6月初旬、試料の発送を7月20日頃、報告の締め切りを8月10日にする方向で進んでいきますので平成29年度の共同実験も多数の参加をお待ちしております。

平成29年度第1四半期に改定規定集を会員各位に配布できるように準備しています。

☆大気・臭気ワーキング

平成29年1月20日に（株）ガステック「リスクアセスメントに対応した簡易測定器について」、柴田科学（株）「HV 遠隔監視システムについて」、（株）オクトサイエンス「排ガス測定器校正及び日常点検について」の勉強会を19名の参加で行いました。理解度及び業務に役立つかどうかのアンケート結果については概ね良い評価でした。

第2回の共同実験の項目は、平成27年（前回）にガス状水銀共同実験を行いました。水銀を希望する事業所が多いため今回（平成29年度）の共同実験は粒子状水銀を実施する予定で進んでいきたいと思っております。

☆騒音・振動ワーキング

平成29年度は、振動に関する勉強会を行う予定です。委員会で会員各位の技術向上に役立つ内容にしていきたいと思っておりますので楽しみにお待ちしております。

技術委員長 長尾 隆宏

○対外交流委員会

平成29年2月17日に平成28年度第3回の委員会を開催しました。議題は、平成28年度の委員会活動の総括及び平成29年度の活動について。

平成28年度は、3回の委員会を開催し社員総会時の特別講演講師の派遣、日環協全国セミナーの参加協力、施設見学会の開催などの活動をし、概ね好評でした。来年度もほぼ同様の活動方針を決めました。

さらに、愛環協設立40周年記念行事への協力、愛環協改革プロジェクトへの積極的な意見の発信をする事を確認し、より多くの協会会員の声を届ける委員会活動を目指しますので、今後とも宜しくお願いします。

対外交流委員長 鎌田 務

○ホームページ委員会

平成28年度第6回ホームページ委員会を2月27日に開催いたしました。ホームページの更新作業は2月3日に実施しました。第6回の委員会では2月10日に締め切った平成28年度写真コンテストの審査を実施しました。写真応募総数42件：応募者数21名の中から金賞、銀賞、入選5、合計7点を選考しました。選考結果を3月14日の理事会に提出することになりました。次回の委員会は、4月24日に決まりました。

ホームページ委員長 金田 哲夫

○災害緊急時対応委員会

平成29年3月21日に開催いたしました特別企画セミナーの第2部におきまして「南海トラフ巨大地震と企業経営」と題して、経営的な視点による計量証明事業所の地震への備えについて東海リスクマネジメント研究会 理事長の彦坂様による講演を企画いたしました。また同セミナーでは、愛知県との災害協定の締結後、6年間の活動についてもご紹介させていただきました。

平成29～30年度は、災害協力会員の更新年度となります。新規協力会員を受け付けておりますので、詳細は事務局までお問い合わせください。平成29年度も愛知県との合同訓練を予定しておりますので皆様のご理解とご協力をお願い致します。

災害緊急時対応委員長 大野 哲

ブロック会議報告

●第1ブロック

平成28年度第2回のブロック会議を、2月22日午後11時から全11社中9社10名と事務局の参加で実施しました。

最初に、平成28年度第3回、第4回理事会の状況について報告いたしました。事務局からは、「法令順守・精度管理」に対する標語と愛環協写真コンテストの応募

状況のほか、愛環協設立40周年記念事業の取組み、環境計量貢献者推薦の追加案内についてご報告をいただきました。次いで、役員改選に伴う平成29・30年度のブロック長選出を行い、(株)テクノ中部氏原和彦が引き続きブロック長を務めることに決まりました。

会議の終了後は、有志による懇親会を行い、交流を深めさせていただきました。

第1ブロック長 氏原 和彦

●第2ブロック

平成28年度第2回会議を2月3日の午後3時30分から協会事務局で、全20社中13社の参加で開催いたしました。

会議では、理事会や委員会の活動報告を行いました。その後、平成29・30年度の役員改選に伴うブロック長選出を行い、(株)環境科学研究所の林が引き続き務めさせていただくことになりました。また、各社近況報告では、騒音振動に関する立入検査や検定検査規則改正に伴う経過措置に関する話題を中心に情報交換をしました。

ブロック会議後に懇親会を開催し、様々な話題で意見交換を行うとともに中日本ハイウェイエンジニアリング名古屋(株)の志賀様による三線演奏もあり、会員の親睦が一層深まりました。



第2ブロック長 林 昌史

●第3ブロック

平成28年度第2回のブロック会議を2月16日に10社中5社の参加で実施しました。議事として理事会報告と次年度以降のブロック長選出を行いました。その結果ブロック長には(一財)東海技術センターにお願いすることになりました。その後意見交換を行い、会議終了後皆様と懇親会を行いました。

第3ブロック長 柴田 金作

●第4ブロック

平成28年度第2回ブロック会議を、3月2日午後3時30分から愛環協事務局で13社中6社7名の参加で開催しました。会議の内容は、まず各出席者の自己紹介、会社紹介、近況報告を行なった後、①平成28年度第3回、第4回理事会の報告、②愛環協改革プロジェクトについて説明報

告をいたしました。続いて次期ブロック長の選出について話し合いました。その結果、次期ブロック長には(株)三進製作所の阿部裕士様をお願いすることが満場一致で決定しました。

会議終了後は、メンバー5名で懇親会を開催し親睦を深めました。

第4ブロック長 豊田 豪

●第5ブロック

平成28年度第2回目のブロック会議を2月17日に豊橋商工会議所会議室にて開催いたしました。第5ブロック会員17社中13社の出席で、会議には手塚事務局長にもご出席いただきました。会議では、昨年9月以降の理事会及び各委員会活動について報告させていただき、次年度のブロック長候補の選出を行いました。また皆さんの近況報告をいただき、活発な情報交換を行うことができました。

会議終了後は懇親会を開催し、さらに活発な意見交換を行いました。

第5ブロック長 大野 哲



中安講師

午後のSOP作成の実践、及び発表においては、他の分析事業所の方々と意見交換させて頂き、楽しい時間となり、とても良い経験になりました。

SSの分析というテーマで、各グループ4人、3グループに分かれて行われました。SSの分析というと、SOPの作成は簡単なように思えました。しかし、様式、記載項目なども含めて一から検討し作成するに当たり、各々の事業所毎に少しずつ考え方や表現に違いがあったことから、意見がまとまるのに時間がかかりました。作成後のSOP発表でも、各グループで様々なSOPが出来上がり、工程の少ないSSの分析でも差が出ることにSOP作成の奥深さを感じました。

この経験を生かし、学んだ事をしっかりと頭に置き、今後のSOPの作成、改善に取り組んで参りたいと思います。またの機会に、他の様々な研修会にも是非参加させて頂きたいと思います。

SOP(標準作業手順書)研修会 受講報告

一般財団法人中部微生物研究所 朝倉 崇

1月25日に行われた「SOP研修会」に参加させて頂きました。

研修では、SOPとは何か、作成の目的、作成時の注意点等の基礎を学ぶ午前の部と、受講者がグループに別れ、実際にSOPを作成、発表する午後の部とで行われました。

午前の講義において、SOPは定期的に見直し、改善する物、検査員の気づきやノウハウを盛り込んで作り上げる物と教わりました。よって、そのSOPは、現在までに職場で培われた知識の結晶であり財産であるということでした。その過程を経たSOPがあるからこそ、精度の良い分析ができるのだなと感じました。

また、今まで私はSOPは検査方法を記した手順書だと思っていましたが、SOPは、誰がそれを基に検査を行っても同様の結果が出て、過去の検査を再現でき、また顧客へは検査結果の根拠となるべき物であると教わり、しっかりとSOPを作成することの重要性を認識しました。



グループ内討議



グループ発表

平成28年度大気・臭気WG勉強会概要報告

大気・臭気WG幹事 内藤 茂

平成28年度大気・臭気WGの勉強会を平成29年1月20日日本特殊陶業市民会館第2会議室で開催しました。



過去に開催した勉強会や共同実験等のアンケート結果によると、今後開催する勉強会では、「日々の業務に使用する測定機器について」や「直接メーカーの説明が聞きたい」要望が多くありました。

そこで今回の勉強会は、下記の3測定機器メーカーの担当者を講師とする内容の勉強会を参加者19人で実施しました。

1. テーマ「リスクアセスメントに対応した簡易測定器について」

講師：(株) ガステック
営業一部営業課 主任 植山豪秀 氏



2. テーマ「HV 遠隔監視システムについて」 柴田科学(株) 営業部マーケティング課 マーケティング係 出口利昭 氏



3. テーマ「排ガス測定器の校正及び日常点検について」 (株) オクトサイエンス 営業部 植村和人 氏



勉強会終了後、各講義の理解度及び今後の有用(役立ち)度について5段階によるアンケートを実施したところ、理解度では各講師の分かりやすい説明もありアンケート結果も平均4.3となりました。

今後の有用度では、アンケート結果が平均で3.8となりました。これはあまり日常的ではない大気質の測定や作業環境測定の内容も一部含まれていたことで、参加者の有用度が低くなったと推測されますが、アンケート結果から概ね参加者には参考になった勉強会になったと思われる。

今後実施する勉強会・共同実験についてのアンケートも実施したところ、排ガス測定や臭気測定の基本的な勉強会などの意見と共に排ガス中の水銀測定や作業環境測定といった要望を複数いただきました。

しかし水銀については、平成27年度の共同実験で既に行いましたし、作業環境測定については愛環協としての対応は難しいと思われ。

勉強会開催についての感想や意見についてもアンケートを実施しました。

勉強会の開催、実施時期や場所については好評をいただきましたが、入場時間に余裕が欲しいといった要望や申込みの確認ができると良いと言った貴重なご意見をいただきました。

アンケート結果は、今後の委員会活動の参考にさせていただきます。

特別企画セミナー 報告

一般財団法人東海技術センター 工藤 博之

平成29年3月21日に日本特殊陶業市民会館において特別企画セミナーが開催されました。

東京都中央卸売市場の豊洲への移転に係る土壌・地下水汚染がクローズアップされ、同時に、環境計量証明業界に対する関心あるいは世間の厳しい目が注がれている今、第1部、愛知県計量センター主幹・米原秀起氏による「計量証明事業所への立入り検査」についての

講演は、計量証明事業所としてのあるべき姿とは何か、また、あるべき姿を維持・迫するためには何が必要なのかを、立入り検査での指導事例等の報告を受ける中で、改めて考えさせられるものでした。

第2部、東海リスクマネジメント研究会の理事長・彦坂高司氏による「南海トラフ巨大地震と企業経営」の講演では、東日本大震災を教訓とした貴重なお話をいただきました。特に、一企業、とりわけ、我々のような中小企業にとっては、地域全体として生き残る術を考え、有事に備えることこそ、自分たちが生き残る上で最も大切なことであると学びました。

セミナー冒頭及び結びの日環協会長・田中正廣氏による「環境計量証明事業界の最新動向について」と題した石綿分析に係る最新動向、愛環協の副代表理事・大野哲氏による「愛環協の災害緊急時の対応について」と題した災害緊急時対応委員会の紹介を含め、今回の特別企画セミナーは非常に有意義なものでした。



愛知県計量センター主幹・米原秀起氏



東海リスクマネジメント研究会 理事長・彦坂高司氏



日環協会長・田中正廣氏

「私の履歴書」

—愛環協、日環協の協会活動を振り返って—
(連載最終回：第8回)



愛知県環境測定分析協会
顧問 濱地 光男

「日環協委員会、理事役員として」から「おわり」まで

18. 日環協委員会、理事役員として

平成9年には、引き続き教育企画委員会委員、研修センター検討委員会委員を務める。平成10年には新しい事業としてISOに基づく技能試験を日環協で始めたいと云うことであった。その技能試験実行委員会委員長に久代専務の頼みから引受けることになる。私が技能試験委員長として頼まれた理由の一つは、事業を早く立ち上げてその収入を協会は早く得たかったことにあった。本来は、技術委員会が主体となり進める事業であろうが、技術委員会では未知の経験でもある技能試験実施に当たり色々なトラブルが起こった時の議論が先行し、迅速に前に進めることは難しいであろうと久代専務は考えたようである。私には、「独断と偏見で良いから経営という観点で委員会を進めてほしい」と告げられた。また、私は(社)研究産業協会の調査団員として海外の検査機関を多く訪問しており、若干だが技能試験の海外情報も持ち合わせていたことが理由の一つでもあった。

その頃、一般的にはあまり用いられていないZスコアなど評価方法の勉強と、その仕組み作りに委員会は苦勞させられたが約一年足らずの準備期間を置き、日本分析化学会との共催事業として平成11年11月に第1回技能試験を実施した。当時業界においては、ISOや精度管理などの意識が普及しつつある時で、参加事業所は思った以上に多く、協会事業として成功した。現在では、重要な事業収入源となっている。おそらく日本でISOに基づく環境分析の技能試験を始めたのはこれが最初である。初代技能試験実行委員会の委員長を務めることが出来たことは光榮に思っている。この年度には、他にガイド25 (ISO/IEC17025) 検討委員会、教育企画委員会の委員をも務める。

私の関係した他の委員会活動は、平成10年・平成15年・平成20年に実態調査委員会委員長、平成11年研修センター設立委員会、平成12年建設委員会。平成15年5月に日環協中部支部長になったことから企画

運営委員会委員も務める。平成18年5月、UILIの関係する日環協国際技能試験実行委員長を務める。平成12年度からは協会本部推薦の理事。平成16年度からは常任理事を務め、平成16年から平成22年まで3期6年間副会長を務めた。この間に会長としての打診もあったが、会長は中央省庁との関係もあり関東圏の理事が就任すべきとして断る。

平成20年11月に日環協の推薦により、「計量の発展に貢献すると共に日本経済の発展と文化の向上に寄与した」として経済産業大臣より表彰を受ける。

また、平成24年11月には愛知県環境部の推薦により、受賞が難しいと言われる愛知県表彰条例第2条第3項による、「環境の保全に貢献」として愛知県知事より表彰を受けた。業界における貢献で愛知県知事表彰を頂くのはこの表彰を含め3度目であった。

平成25年5月理事の任期満了、65歳を迎え日環協内規により退任する。しかしながら当時の橋場会長（後、日環協事務局技術部長に就任）はじめ次期会長となる田中正廣氏（東海テクノ）、ほか多くの方々からご意見番として協会役員として残ってほしいとの要望があり、内規により70歳まで勤めることの出来るポストとして監事を引き受けることになる。

19. 日環協を通しての海外との係わり

この間、米国独立試験所協会（ACIL）を担当する理事として平成17年ACIL主催の第21回米国環境モニタリング会議（ワシントン）に当社の柳沢を同行させ、UILI国際技能試験の結果発表を要請により行う。

平成19年にはACIL70周年記念（アトランタ）に招待され、日環協の役割と事業の内容について講演を行う。また翌年平成20年のACIL総会（アルバカーキ）には当社の多田を同行させ出席する。以後ACILがUILIから脱退するなどACILの組織に問題がおこるなど、日環協としてはACILに加盟している意義も薄れ、平成20年にACILから退会する。

平成17年11月に近隣国の環境分析事情を視察調査すべく、当時の日環協会長であった笠井光博氏と相談し、台湾の環境分析事情の調査を目的として、日環協会員から参加者を募り団を結成した。笠井氏を団長、私を副団長として台湾の環境分析団体や行政機関などとも交流し、意見交換やラボ視察などを実施した。

20. 日環協中部支部と愛環協

私は、以前から愛環協と深い関係を持つ日環協中部支部の運営委員として、愛環協事務局担当理事の立場で出席をしていた。

中部支部の運営には発足当初からの申し合わせで、支部長は支部事務局を引き受けることとなっている。また

事務局は支部長在住の県内であれば他に委託することもできるとなっている。支部会員の利便性から判断すれば、当然会員の多い愛環協に支部事務局を設置することが妥当であることから、歴代にわたって愛環協の会長が支部長を務めて来たのである。

私は平成16年度から支部長を引き受けることになる。事業を推進するにあたり、中部支部である東海6県と情報を密にして行くことが最も大切なことと考え、従来からの運営委員会、支部総会の外に年2回中部支部ニュースを発刊して、支部会員と関係機関に配布することを始めた。年に2回と云えども記事の収集から校正まで全てを自ら行ったため、結構時間を割かれる作業であった。また、教育研修事業の重要性から遠方で参加が難しい富山、石川県において精度管理等講習会を愛知県から講師を派遣して出前講習会を開始した。

私の支部長任期中に本部主催である技術セミナー全国大会、経営者セミナー全国大会など中部支部でも実施したが、常に新しい企画で事業を実施し、各支部からの注目を浴びた。このような企画も海外のセミナーに参加し勉強させてもらったことが大いに役立ったのである。

おわりに

原稿の執筆を始めて、あれもこれも書いておきたいと頭の中を色々な事柄が錯綜し、せっかくの機会を頂きながら、なかなか纏まったものにならず読者の方々には申し訳なく思っています。私の40年に渡る業界活動を当初の約束の原稿枚数ではとても書ききれず、大幅に超えてしまったにもかかわらず、少々走った内容となってしまいました。そのようなことで、今回の原稿は私の業界活動の一部でしかありません。私自身のことだけでは無く、愛環協、日環協の活動の経緯をまだまだ読者の皆様を知って頂きたいことが沢山あります。

愛環協のあゆみについては河野達郎会長が中心となられ、平成25年7月に発行されました冊子「愛知県環境測定分析協会のあゆみ」が簡潔でとても分かりやすく纏められております。協会の歴史に興味のある方はぜひ一度お読みいただくことをお奨めします。

機会があればそれぞれのテーマに区切りをつけた内容で紹介して行きたいと思っております。

長期間にわたりお付き合いいただきました読者の皆様には厚くお礼を申し上げます。

最後に、愛環協、日環協の会員事業所皆様のご発展を祈念いたしまして筆をおきます。

次号（7月号）は、「私の履歴書」の追補版を掲載する予定です。

平成29年度 「環境に関する喚起標語」 入選者・入選作紹介

	作 品	所 属	氏 名
特選	正しい手順で正しく計量、基本が築く精度管理	サンエイ株式会社	鈴木 大地
入選	法令順守の測定で 守る環境 守る未来	株式会社環境科学研究所	貝川 裕一
入選	確実な技術の伝達と教育で 高めよう環境計量の信頼性	三協熱研株式会社	各務 直之
入選	日常点検は機器との挨拶 毎朝交わして精度確保	サンエイ株式会社	神谷 明寿
入選	慣れと過信はミスの元、基本を守り、上げよう精度 高めよう品質	株式会社愛研	神谷 めぐみ
入選	法令遵守 信頼は正しい知識と管理から	藤吉工業株式会社	川崎 知美
入選	高めよう! 確かな計測 築きあげよう! 大きな信頼	株式会社環境科学研究所	小久保 徳久
入選	計量で つなごう未来 豊かな環境	株式会社東海分析化学研究所	鈴木 幸世
入選	これだけは譲れない。“法の遵守と正しい測定”	名南サービス株式会社	高橋 雅人
入選	機器管理、それは精度につながる危機管理	一般財団法人東海技術センター	新美 康太
入選	確かな技術と確かな計量 重ねて築く 確かな信頼	株式会社環境科学研究所	日和田 志郎

(入選は氏名の五十音順)



事務局からのお知らせ
愛知県環境部(モリコロ)案内

愛知県では、モリコロパーク内にある環境学習施設「もりの学舎」において、5月1日(月)及び2日(火)を除く4月29日(土)から5月7日(日)まで、ゴールデンウィーク特別企画として、インタープリターと一緒に自然とふれあう「もりのツアー」や「あそび工房(工作教室)」などのイベントを実施します。

特に、4月30日(日)及び5月3日(水)から5日(金)までの4日間は、愛環協及び一般財団法人東海技術センター、株式会社環境科学研究所の協力を得て実施します。

手塚事務局長退任のお知らせ

この度愛環協を退任することになりました。会員の皆様方には大変お世話になりありがとうございました。5年間、様々な経験をさせていただきました。

愛環協は組織率も高く、活動内容も各種研修会の開催、行政との災害緊急時対応体制の構築、会員親睦行事の開催、他県との交流等々多岐に亘っており、会員各位の熱意もあって非常に活発なものには驚かされました。

また今年には愛環協設立40周年ということで、新規事業の展開や既存事業の見直し等が活発に議論されることかと思えます。会員の皆様方のさらなる飛躍を祈念しまして、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。



手塚 守

研修会予定

- 5月25日 定時社員総会 プリンセスガーデンホテル
- 6月2日 環境測定分析新任者研修会
- 6月16日 環境月間講演会
- 7月14日 初級統計研修会
- 7月21日 愛環協設立40周年記念式典(予定)

編集後記

いつもお読みいただきありがとうございます。また、寄稿いただいた皆様には大変感謝申し上げます。

さて、今号は現メンバーで作業をする最後の仕事となりました。この2年間で「あいかんきょう」も編集作業の改革、紙面の横書き化など大きく変化しました。これからも良いところは残しつつも常に皆様に楽しんで読んでいただけるよう変化し、頑張っていきたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

(編集: 豊田豪、大場恵史)

発行人 (一社)愛知県環境測定分析協会
代表理事 河野 達郎
〒460-0022名古屋市中区金山1-2-4
アイディエリア405号
TEL・FAX 052-321-3803
E-mail aikankyo@nifty.com
編集 (一社)愛知県環境測定分析協会
広報委員会
委員長: 菊谷彰、副委員長: 豊田豪
委員: 市川ゆかり、大場恵史、近藤賢、吉成仁志